

第9回 軽井沢スキーバス事故対策フォローアップ会議 概要

日 時：令和6年10月1日（火） 15:00～17:00

会議形式：対面会議（Web 会議併用）

出席者：山内委員長、酒井委員、郷野委員、加藤委員、駒井委員、蝦名委員、住野委員、清水委員、三浦委員、水野委員、村木委員、松田委員、安部委員

議事次第に沿って、事務局や各関係業界団体から資料の説明があった。各資料説明後、質疑・意見交換が行われた。委員から出された主な意見は以下のとおり。

議題・意見

- 事故が減ってきていないが、どこに問題があるか分析をしていく必要がある。毎年、追突事故が突出して発生しており、なぜ昨年より増えているのか。ASV は増加傾向であるが、もっと普及する必要がある。そのため、バス協会に入っていれば補助金の周知がされていると思うが、バス協会に入っていない業者にも周知して、ASV の普及の対策をしていくのがよい。

昨年10月に運賃の下限を設定したが、利用者は運賃が上がったというだけで、なぜ上がったのか理解されていない状況だと、適正な運賃収入につながっていかない。行政から安全コストのためであることを周知徹底していく必要がある。

監査のあり方において、デジタルを活用した監査の充実を図れるのではないかな。

- 追突事故を減少させる対策はしているのか。追突は追突した側が100%過失になり、過失の対応として居眠りであったのか等分析をするべき。

交通事故示談交渉の時に自動車安全運転センターから交通事故証明書が取れるので、それを事故分析に活用できるのではないかな。

- 事故件数がコロナ禍以前と同程度になっている。様々な取組を引き続き進めていただきたい。

ドライバー異常時対応システムに乘客が対応できる押しボタンがあることや、万が一の事故の際に乘客が取る対応方法（安全姿勢など）を周知することがドライバーや乘客の安全につながり、万が一の事故の際のダメージを最小限にとどめることができるのではないかな。

安全安心なバス運行を誓う集いはとても大切な取組であり、遺族の思いを踏まえて行政・業界が前に進めてほしい。

安全性評価認定制度は良い取組なので、利用者にバス事業者を選ぶ際の指標としてもらうために広く広報をしていただきたい。

- 平均給与を見ると顕著な賃上げが実現しており、安全には運転者の心の平安が非常に大事。それにはしっかりと給与が支払われるのが大切で非常に良い方向。

運行管理のデジタル義務化はいい取組であり、このような取組が船舶モードでもされてほしい。

- 軽井沢事故やふじあざみラインの事故は運転技量の未熟があった。この点をどうやって具体的に事業者やドライバーに取り組んでもらうかを要望してきて、今回、具体的に方策をあげていただき、大変うれしく思う。今後仕組みを検討するにあたり、どこの研修実施機関等で行うか、研修の対象者を誰にするかを検討することが重要である。

EDR の使用は事故を検証する上では有効な方策ではあるが、今まで事故調査委員会での事故調査で EDR を活用できたのは 1 例のみである。適用時期をできるだけ前倒ししてほしい。また、事故の火災等で取り出せないことが懸念されるため、クラウド等の利用も検討してほしい。

健康起因事故は薬の服用も関連があり、運転禁止薬は約 2,800 種類ある。それを運転者が使用しているかもしれないのでそのあたりの周知も行してほしい。

- 軽井沢事故の事故原因は不明な部分があったこともあり、EDR があれば明確になると期待している。
第 2 世代、第 3 世代 AEBS が入ってきたときに追突防止にどの程度寄与するのか、ロールオーバーについてもどうして発生したかを理解するにおいても EDR は不可欠である。もう一歩進んで ASV の効果検証に EDR を使っていけるのではないか。

- 事故当時は運転手がある程度いたが、コロナ禍を経て人手不足に陥っているなど、状況が大きく変化している。対策自体は変わらないのかもしれないが、説明の再構成や棚卸をしたほうがいいと思う。

運賃が高くなった理由の説明ができていない。安全装備のためと人件費を上げるためであるが、まだ、人件費は全産業平均にはいたっていないので、まだまだ取り組んでいかないといけないことを利用者にご理解していただくように説明していかなければならない。貸切と乗合の賃金に格差が出ている点も考えなければならない。

動画による点呼の記録はやるべきと思うが、現場ではコストアップになっていて負担が増えている。

適正化センターではデジタル化した点呼の記録を現状ではあまり確認できていない。また、適性化センターによる巡回指導とセーフティバス認定制度の違いが分からない方が多いので、適正化センターをアピールしていく必要があると感じている。

運行管理者は不足していないか。中小ではコスト面や人員不足で点呼ができない状況にならないように IT による点呼や DX の導入が非常に大事である。

- 貸切バス利用者のシートベルト着用の取組の徹底を促進してほしい。
- 来年はフォローアップ検討会 10 回目と節目の年になるので、85 項目を実施してきて貸切バス業界の安全管理がどのように変わったのか示していただけないか。事業環境が変わっている中、85 項目以外に漏れないか確認してほしい。白バスの状況を警察と連携して示してほしい。
- データの詳細分析、新しい施策の前倒し等、非常に多くのご意見を委員からいただいた。事務局はご意見を受け止めて、対応いただきたい。

以上